

3-1 一般商品売買の体系

①【一般商品売買】

1. 意義

一般商品売買とは、小売店での店頭販売商品の仕入および売上がいい、特殊商品売買に対する概念である。

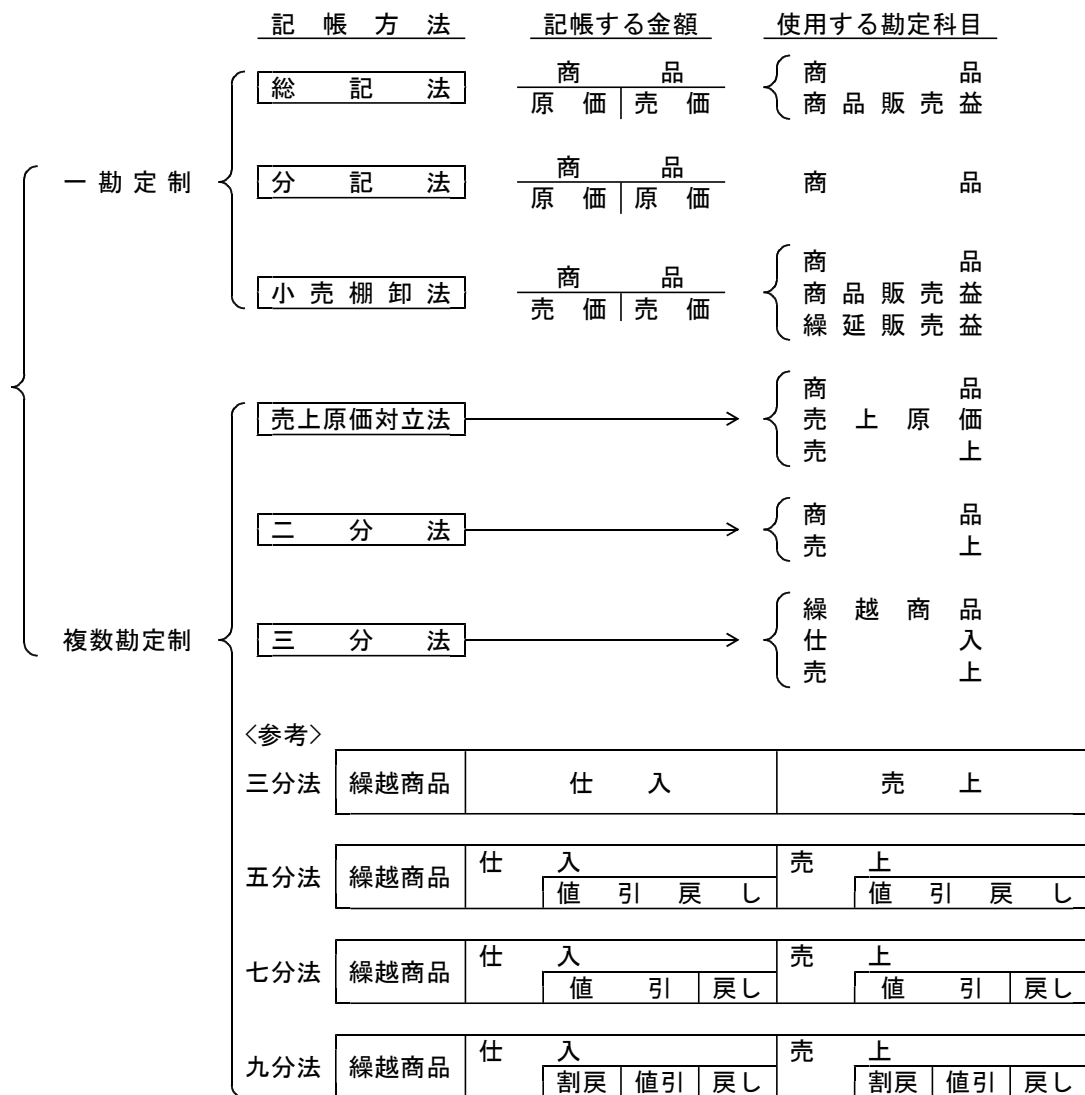
2. 会計処理

一般商品売買の会計処理とは、商品の仕入および売上取引を三分法等の一定の方法により記録・計算することをいう。

【目的】

- ①一会計期間における商品販売損益を勘定により明らかにすること
- ②期末決算時における商品の在高を勘定により明らかにすること

②【一般商品売買の記帳方法】



③【返品、値引、割戻および割引】

1. 意義

(1) 返品

返品とは、商品の品違い等を理由とした返却をいう。

(2) 値引

値引とは、商品の品質不良、破損等により商品代金から控除される金額をいう。

(3) 割戻

割戻とは、一定期間の売買総額が基準以上に達した等で行われる商品代金の一部免除をいう。

(4) 割引

割引とは、掛代金の支払または受取が一定期間内に決済された場合の代金の一部免除をいう。

2. 返品、値引、割戻、割引の取扱い

項目	仕入	売上	損益計算書の表示
返品	元の取引の取消	元の取引の取消	売上高および当期商品仕入高は、
値引	仕入原価の減少	販売益の減少	返品・値引・割戻を控除した、
割戻			純売上高および純仕入高を計上
割引	受取利息的な性格	支払利息的な性格	仕入割引は営業外収益(仕入割引勘定) 売上割引は営業外費用(売上割引勘定)

【設例】

- (1) 期首の在庫は5個(売価¥5,000/原価¥3,000)
- (2) 売価@1,000の商品を単価@620で60個購入
- (3) 品質不良のため、このうち10個を返品し、¥1,000の値引きを受けた
- (4) この商品42個を単価@1,000で販売
- (5) このうち、2個の返品を受け、その後¥2,500の値引きを行った

3-2 一般商品売買の記帳方法

1 【三分(割)法】

1. 意義

三分(割)法とは、商品取引を属性に応じて「繰越商品」勘定、「仕入」勘定、「売上」勘定の三分に分割して記録する方法である。三分法を更に細分化すると、五分法、七分法、九分法となる。

2. 会計処理

(1) 商品購入時

仕 入 (原価) 37,200 // 買 掛 金 37,200

(2) 仕入戻し/仕入値引・割戻

①仕入戻し

買 掛 金 6,200 // 仕 入 (原価) 6,200

②仕入値引・割戻

買 掛 金 1,000 // 仕 入 (原価) 1,000

(3) 商品販売時

売 掛 金 42,000 // 売 上 (売価) 42,000

(4) 売上戻り/売上値引・割戻

①売上戻り

売 上 (売価) 2,000 // 売 掛 金 2,000

②売上値引・割戻

売 上 (売価) 2,500 // 売 掛 金 2,500

(5) 決算整理

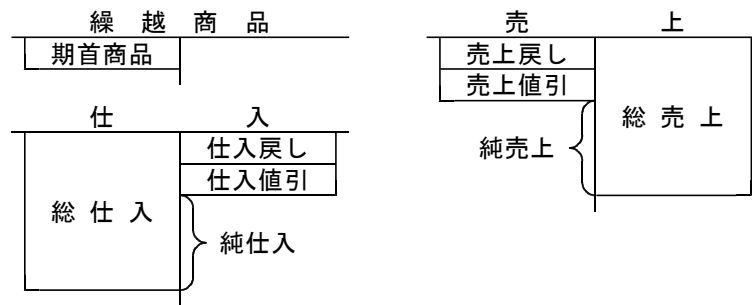
①期首商品分

仕 入 3,000 // 繰 越 商 品 3,000

②期末商品分

繰 越 商 品 9,000 // 仕 入 9,000

3. 勘定記入(決算整理前)



※ 五分法、七分法の決算整理前試算表

<五分法> 決算整理前試算表		<七分法> 決算整理前試算表	
繰越商品	売上	繰越商品	売上
仕入	仕入値引戻し	仕入	仕入戻し
売上値引戻り	仕入割引	売上戻り	仕入値引割戻
売上割引		売上値引割戻	仕入割引
		売上割引	

4. 簿記手続の一巡

(1) 期首試算表

期首試算表	
繰越商品	3,000

(2) 期中取引

仕 入	30,000	//	買 掛 金	30,000
売 掛 金	37,500	//	売 上	37,500

(3) 決算整理前残高試算表

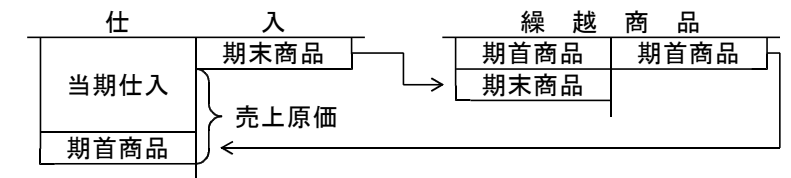
決算整理前試算表			
期首商品 ⇒	繰越商品	3,000	売上 37,500
当期仕入 ⇒	仕 入	30,000	

(4) 決算整理

①決算整理仕訳

仕 入	3,000	//	繰越商品	3,000
繰越商品	9,000	//	仕 入	9,000

②勘定連絡



決算整理後試算表			
期末商品 ⇒	繰越商品	9,000	売上 37,500
売上原価 ⇒	仕 入	24,000	

③決算振替

売 上	37,500	//	損 益	37,500
損 益	24,000	//	仕 入	24,000
損 益				
仕 入	24,000		売 上	37,500

5. 特徴

総記法 ⇒ 分記法 ⇒ 売上原価対立法 ⇒ 二分法 ⇒ 三分法と発展し、今日標準とされる記帳方法である。仕入帳や売上帳等の特殊帳簿と総勘定元帳の勘定との間に金額の一致を得る目的のため、(期首ではなく、)期末に繰越商品が仕入勘定に振替えられるのが特徴である。

※ 五分法、七分法の決算整理

<五分法>		<七分法>	
売 上 // 売上値引戻り	仕入戻し // 仕 入	売 上 // 売上戻り	仕入戻し // 仕 入
仕入値引戻し // 仕 入	仕 入 // 繰越商品	// 売上値引割戻	仕入戻し // 仕 入
	繰越商品 // 仕 入	仕入戻し // 仕 入	仕入戻し // 仕 入
		仕 入 // 繰越商品	仕 入 // 繰越商品
		繰越商品 // 仕 入	繰越商品 // 仕 入

## ②【総記法(whole system)】

## 1. 意義

総記法とは、「商品」勘定のみを用いて商品取引を記録する方法であり、商品購入時には商品の仕入原価を商品勘定の借方に記入し、商品販売時には商品の販売高を商品勘定の借方に記入する会計処理を行う。

## 2. 会計処理

## (1) 商品購入時

商 品 (原価)37,200 // 買 掛 金 37,200

## (2) 仕入戻し／仕入値引・割戻

## ①仕入戻し

買 掛 金 6,200 // 商 品 (原価) 6,200

## ②仕入値引・割戻

買 掛 金 1,000 // 商 品 (原価) 1,000

## (3) 商品販売時

売 掛 金 42,000 // 商 品 (売価)42,000

## (4) 売上戻り／売上値引・割戻

## ①売上戻り

商 品 (売価) 2,000 // 売 掛 金 2,000

## ②売上値引・割戻

商 品 (売価) 2,500 // 売 掛 金 2,500

## (5) 決算整理

商 品 13,500 // 商品販売益 13,500

## 3. 勘定記入

商品(決算整理前)		商品(決算整理後)	
期首商品	仕入戻し	期首商品	純売上高
	仕入値引	純仕入高	
総仕入高	総売上高	商品販売益	期末商品
売上戻り			
売上値引			
期末の在庫がなければ商品販売益			

## 4. 特徴

商品勘定は資産取引と損益取引が混在する混合勘定となり、借方残になることも貸方残になることもある。

商品勘定の残高は、期末の在庫がない場合には商品の販売益を示すが、それ以外の場合には、

$$\begin{aligned} \text{商品販売益} &= \text{売上高} - (\text{期首商品} + \text{仕入高} - \text{期末商品}) \\ &= \text{売上高} + \text{期末商品} - (\text{期首商品} + \text{仕入高}) \end{aligned}$$

であるから、商品販売益から期末商品を控除した金額となる。従って、通常は、決算整理仕訳が必要となる。

## ③【分記法】

## 1. 意義

分記法とは、「商品」勘定と「商品販売益」勘定を用いて商品取引を記録する方法であり、商品購入時には商品の仕入原価を商品勘定の借方に記入し、商品販売時にはその仕入原価を商品勘定の貸方に、販売益を商品販売益勘定の貸方に記入する会計処理を行う。

## 2. 会計処理

## (1) 商品購入時

商 品 (原価)37,200 // 買 掛 金 37,200

## (2) 仕入戻し／仕入値引・割戻

## ①仕入戻し

買 掛 金 6,200 // 商 品 (原価) 6,200

## ②仕入値引・割戻

買 掛 金 1,000 // 商 品 (原価) 1,000

## (3) 商品販売時

売 掛 金 42,000 // 商 品 (原価)25,200  
// 商品販売益 16,800

## (4) 売上戻り／売上値引・割戻

## ①売上戻り

商 品 (原価) 1,200 // 売 掛 金 2,000  
商品販売益 800 //

## ②売上値引・割戻

商品販売益 2,500 // 売 掛 金 2,500

## (5) 決算整理

— 仕 訳 不 要 —

## 3. 勘定記入

商 品		商品販売益	
期首商品	仕入戻し	売上戻り	総販売益
	仕入値引	売上値引	
総仕入	総売上原価	当期販売益	( = P/L 売上総利益 )
売上戻り		期末商品	

## 4. 特徴

総記法の欠点を克服するために考案された方法が分記法であり、商品勘定は常に借方残となり商品の現在在高を示す。また、売上の計上時に販売益を算定するため決算整理は不要である。

ただし、多種の商品を販売する状況では困難が伴うため実務で採用されることはない。

## 4【売上原価対立法】

## 1. 意義

売上原価対立法とは、「商品」勘定、「売上原価」勘定、「売上」勘定を用いて商品取引を記録する方法であり、商品購入時には商品の仕入原価を商品勘定の借方に記入し、商品販売時には商品の売上高を売上勘定の借方に記入した上で、商品の売上原価を商品勘定から売上原価勘定の借方に振替える会計処理を行う。

## 2. 会計処理

## (1) 商品購入時

商	品	(原価)37,200 //	買	掛	金	37,200
---	---	---------------	---	---	---	--------

## (2) 仕入戻し／仕入値引・割戻

## ①仕入戻し

買	掛	金	6,200 //	商	品	(原価) 6,200
---	---	---	----------	---	---	------------

## ②仕入値引・割戻

買	掛	金	1,000 //	商	品	(原価) 1,000
---	---	---	----------	---	---	------------

## (3) 商品販売時

売	掛	金	42,000 //	売	上	42,000	
売	上	原	価	25,200 //	商	品	25,200

商	品	(原価) 1,200 //	売	掛	金	2,000
商	品	販	売	益	800 //	

## (4) 売上戻り／売上値引・割戻

## ①売上戻り

売	上	2,000 //	売	掛	金	2,000	
商	品	1,200 //	売	上	原	価	1,200

## ②売上値引・割戻

売	上	2,500 //	売	掛	金	2,500
---	---	----------	---	---	---	-------

## (5) 決算整理

— 仕 訳 不 要 —

## 3. 勘定記入(決算整理前)

商	品	売	上
期首商品	仕入戻し	売上戻り	}
}	仕入値引	売上値引	
	総仕入	総売上原価	}
	売上戻り	期末商品	
		売上原価	
		総売上原価	売上戻り
		}	売上原価

## 4. 特徴

商品勘定を分割することによって総記法の欠点を克服しており、商品勘定は常に原価での現在在高を示す借方残となるほか、損益取引をその実態どおりに記録できる利点がある。

ただし、分記法と同じ理由により、実務で採用されることはない。

## 5【二分法】

## 1. 意義

二分法とは、期中には「商品」勘定と「売上」勘定を用いて商品取引を記録する方法であり、商品購入時には商品の仕入原価を商品勘定の借方に記入し、商品販売時にはその売上高を売上勘定の借方に記入する会計処理を行い、決算時にまとめて売上原価を認識する。

## 2. 会計処理

## (1) 商品購入時

商	品	(原価)37,200 //	買	掛	金	37,200
---	---	---------------	---	---	---	--------

## (2) 仕入戻し／仕入値引・割戻

## ①仕入戻し

買	掛	金	6,200 //	商	品	(原価) 6,200
---	---	---	----------	---	---	------------

## ②仕入値引・割戻

買	掛	金	1,000 //	商	品	(原価) 1,000
---	---	---	----------	---	---	------------

## (3) 商品販売時

売	掛	金	42,000 //	売	上	(売価)42,000
---	---	---	-----------	---	---	------------

## (4) 売上戻り／売上値引・割戻

## ①売上戻り

売	上	(売価) 2,000 //	売	掛	金	2,000
---	---	---------------	---	---	---	-------

## ②売上値引・割戻

売	上	(売価) 2,500 //	売	掛	金	2,500
---	---	---------------	---	---	---	-------

## (5) 決算整理

売	上	原	価	24,000 //	商	品	24,000
---	---	---	---	-----------	---	---	--------

※ 売上原価 = 期首商品棚卸高 + 当期商品純仕入高 - 期末商品棚卸高

## 3. 勘定記入(決算整理前)

商	品	売	上
期首商品	仕入戻し	売上戻り	}
}	仕入値引	売上値引	
	総仕入	売上原価	}
		期末商品	
		売上原価	
		総売上原価	売上戻り
		}	売上原価

## 4. 特徴

商品勘定を仕入に関するものと売上に関するものに分割することによって総記法の欠点を克服しており、損益取引をその実態どおりに記録できるほか、決算時にまとめて売上原価を認識することによって、分記法や売上原価対立法の欠点も克服している。

## ⑥【小売棚卸法】

## 1. 意義

小売棚卸法とは、「商品」勘定、「商品販売益」勘定、「繰延販売益」勘定を用いて商品取引を記録する方法であり、商品購入時には商品の売価でもって商品勘定の借方に、原価との差額を商品販売益勘定の貸方に記入し、商品販売時にはその売価を商品勘定の貸方に記入する会計処理を行う。

## 2. 会計処理

## (1) 商品購入時

	商	品	(売価) 60,000	//	買	掛	金		
								37,200	
								//	商品販売益
									22,800

## (2) 仕入戻し／仕入値引・割戻

## ①仕入戻し

	買	掛	金	6,200	//	商	品	(売価) 10,000	
				3,800	//				

## ②仕入値引・割戻

	買	掛	金	1,000	//	商	品	販売益	1,000
--	---	---	---	-------	----	---	---	-----	-------

## (3) 値替(値下・値上)

## ①値下時

	商	品	販売益	1,000	//	商	品	(差額) 1,000	
--	---	---	-----	-------	----	---	---	------------	--

## ②値上時

	商	品	(差額) 1,000	//	商	品	販売益	1,000	
--	---	---	------------	----	---	---	-----	-------	--

## (4) 商品販売時

	売	掛	金	42,000	//	商	品	(売価) 42,000	
--	---	---	---	--------	----	---	---	-------------	--

## (5) 売上戻り／売上値引・割戻

## ①売上戻り

	商	品	(売価) 2,000	//	売	掛	金	2,000	
--	---	---	------------	----	---	---	---	-------	--

## ②売上値引・割戻

	商	品	販売益	2,500	//	売	掛	金	2,500
--	---	---	-----	-------	----	---	---	---	-------

## (6) 決算整理

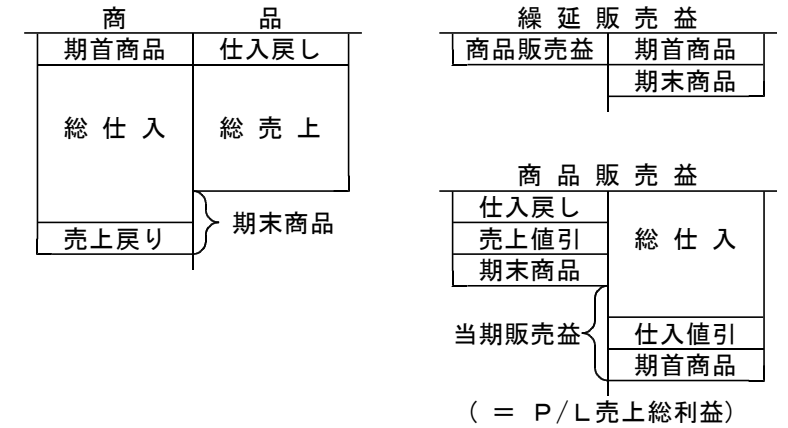
## ①期首商品分

	繰	延	販売益	2,000	//	商	品	販売益	2,000
--	---	---	-----	-------	----	---	---	-----	-------

## ②期末商品分

	商	品	販売益	6,000	//	繰	延	販売益	6,000
--	---	---	-----	-------	----	---	---	-----	-------

## 3. 勘定記入



## 4. 特徴

商品勘定は常に借方残であり、商品の(売価で記録した)在高を示す。一方、商品販売益勘定の残高は、期末の繰越在庫がない場合には商品の販売益を示しているが、それ以外の場合には何の意味もない。従って、通常は、決算整理仕訳が必要となる。

## 3-3 売上原価および原価率の算定

## 1 【売上原価の算定】

## 1. 継続記録法

売上原価 = 期首商品棚卸高 + 当期純仕入高 - 期末商品帳簿棚卸高

## 2. 棚卸計算法

売上原価 = 期首商品棚卸高 + 当期純仕入高 - 期末商品実地棚卸高

## 3. 払出単価の計算方法

## (1) 先入先出法 (Fifo: first-in first-out method)

先入先出法とは、最も古く取得されたものから順次払出しが行われ、期末在庫は最も新しく取得されたものからなるとみなして期末在庫の価額を算定する方法である。

cf. 後入先出法 (Lifo: last-in first-out method)

## (2) 移動平均法 (moving average method)

移動平均法とは、取得の都度平均単価を求め、これを払出単価として期末在庫の価額を算定する方法である。

## (3) 総平均法 (periodic average method)

総平均法とは、一定期間の取得に対して一括して総平均単価を求め、これを払出単価として期末在庫の価額を算定する方法である。

## (4) 最終仕入原価法

最終仕入原価法とは、最終仕入原価をもって期末在庫の価額を算定する方法である。

## 2 【棚卸減耗】

## 1. 意義

棚卸減耗とは、商品有高帳による帳簿在 high と実地棚卸による実地棚卸高との差額をいう。

## 2. 単価が複数ある場合

先入先出法であれば、期末残高のうち「先に仕入れたものから減耗が発生した」と仮定して、棚卸減耗費の計算を行う。

## 3 【期末商品の評価】

## 1. 正味売却価額

正味売却価額(販売等による資金回収見込額) = 売価 - 見積販売直接経費

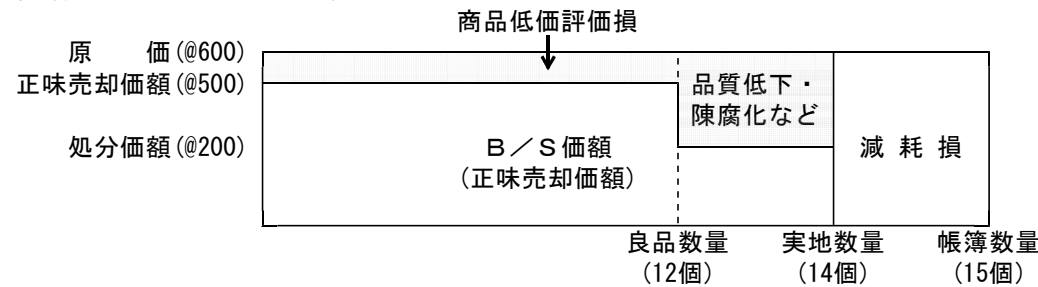
## 2. 期末商品の評価

## (1) 原則

商品等の棚卸資産は、取得原価をもって貸借対照表価額とする。

## (2) 評価損の計上

期末の正味売却価額が取得原価よりも下落しているときには、正味売却価額をもって貸借対照表価額としなければならない。



## 4 【棚卸減耗と評価損の会計処理】

## 1. 決算整理仕訳

(1) 期首商品	仕 入	3,000 // 繰 越 商 品	3,000
(2) 期末帳簿在 high (15個)	繰 越 商 品	9,000 // 仕 入	9,000
(3) 期末実地数量 (14個)	棚 卸 減 耗 費	600 // 繰 越 商 品	600
(4) 評価損の計上	商品低価評価損	2,000 // 繰 越 商 品	2,000

## 2. 財務諸表

経常的に発生するものか、臨時的に発生するものかで損益計算書の表示区分が異なる。

		売上原価の 内 訳 科 目	販 管 費	営業外費用	特別損失
棚 卸 減 耗	原価性あり	○	○		
	原価性なし			○	○
通常の評価損		○			
臨時的な事象による評価損					○

損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
I 売上高	37,500	商 品 6,400	
II 売上原価		↑	
1 期首商品棚卸高	3,000	実地棚卸高	
2 当期商品仕入高	30,000		
合 計	33,000		
3 期末商品棚卸高	9,000 ←	帳簿棚卸高	
4 棚 卸 減 耗 費	600		
5 商品低価評価損	2,000		
売上総利益	10,900		

## ※ 【商品有高帳の記入】

- ① 前期繰越は、受入欄及び残高欄に数量・単価・金額を記入する。
- ② 仕入は受入欄に、売上は払出欄に数量・単価・金額をそれぞれ記入し、残高欄にはその都度残高を記入する。
- ③ 仕入返品は、受入の修正として受入欄に赤字記入する。
- ④ 仕入値引は、受入単価の修正であり数量は変化しないので、受入欄に金額のみ赤字記入し、残高欄の単価と金額を修正する。
- ⑤ 売上返品は、払出の修正として払出欄に赤字記入する(品質低下でも単価の修正はしない)。
- ⑥ 売上値引は、販売益の修正であるから商品有高帳には一切記入しない。

5【売価還元法】

1. 意義

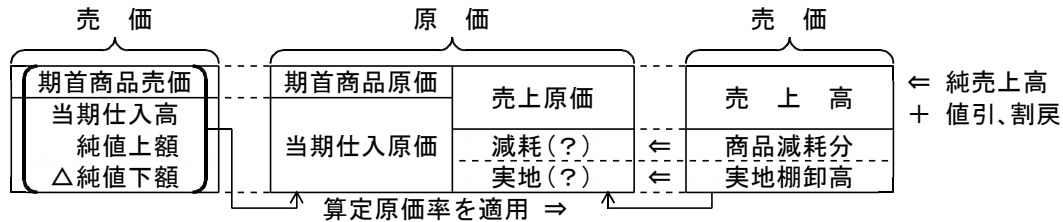
売価還元法とは、売上原価の算定方法として棚卸計算法を採用している場合に、まず実地棚卸を行い売価による期末棚卸高を確定し、これに一定の原価率を乗じることによって期末棚卸高を求める方法である(⇒商品有高帳による払出管理をしないことが前提)。

2. 連続意見書方式

(1) 売価還元平均原価法

$$\text{原価率} = \frac{\text{期首商品原価} + \text{当期商品仕入原価}}{\text{期首商品売価} + \left( \frac{\text{当期商品原価}}{\text{仕入原価} + \text{値入高}} \right) + \left( \frac{\text{値上高} - \text{値上取消額}}{\text{値上高} - \text{値上取消額}} \right) - \left( \frac{\text{値下額} + \text{値下取消額}}{\text{値下額} + \text{値下取消額}} \right)}$$

= 当期仕入売価                      = 純値上額                      = 純値下額

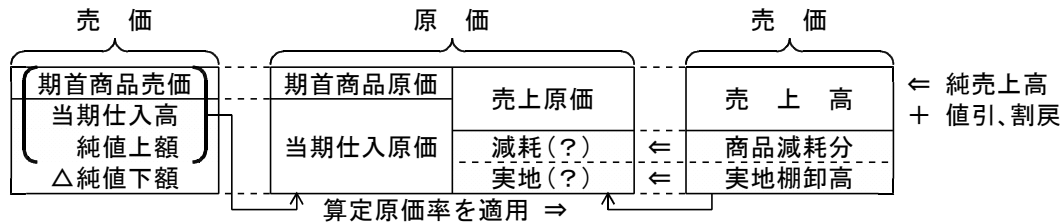


※ 正味売却価額より期末棚卸高が下回る場合には、評価損を計上しなければならない。

(2) 売価還元低価法

$$\text{原価率} = \frac{\text{期首商品原価} + \text{当期商品仕入原価}}{\text{期首商品売価} + \left( \frac{\text{当期商品原価}}{\text{仕入原価} + \text{値入高}} \right) + \left( \frac{\text{値上高} - \text{値上取消額}}{\text{値上高} - \text{値上取消額}} \right) - \text{(なし)}}$$

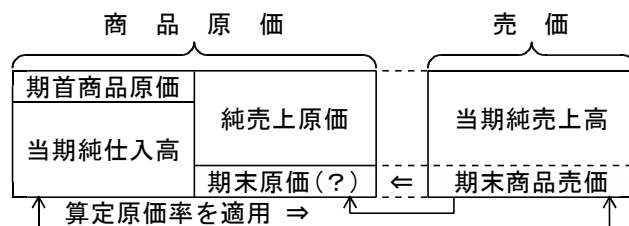
= 当期仕入売価                      = 純値上額



※ 売上高 × 原価率 ≠ 売上原価

3. 税法方式

$$\text{原価率} = \frac{\text{期首商品原価} + \text{当期商品仕入原価}}{\text{当期純売上高} + \text{期末商品売価}}$$



※ この方法では、棚卸減耗損の把握はできない。

4. 売価還元低価法の損益計算書

(1) 評価損を計上しない場合

損益計算書		
I 売上高		37,500
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高	3,300	
2 当期商品仕入高	33,000	
合計	36,300	
3 期末商品棚卸高	3,500	32,800
売上総利益		4,700
III 販売費及び一般管理費		
1 棚卸減耗費	700	700
		4,000

帳簿売価 × 売価還元低価法の原価率  
(帳簿売価 - 実地売価) × 売価還元低価法の原価率

(2) 評価損を計上する場合

損益計算書		
I 売上高		37,500
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高	3,300	
2 当期商品仕入高	33,000	
合計	36,300	
3 期末商品棚卸高	3,600	
差引	32,700	
4 商品低価評価損	80	32,780
売上総利益		4,720
III 販売費及び一般管理費		
1 棚卸減耗費	720	720
		4,000

帳簿売価 × 売価還元平均原価法の原価率  
実地売価 × (売価還元平均原価法の原価率 - 売価還元低価法の原価率)  
(帳簿売価 - 実地売価) × 売価還元平均原価法の原価率

評価損を計上しない場合

B/S 価額	減耗費
--------	-----

実地売価 (4,000)      帳簿売価 (5,000)

評価損を計上する場合

商品低価評価損	減耗費
B/S 価額	

実地売価 (4,000)      帳簿売価 (5,000)

売価還元平均原価法  
売価還元低価法

72%  
70%

6【原価率と利益率】

1. 原価率と利益率

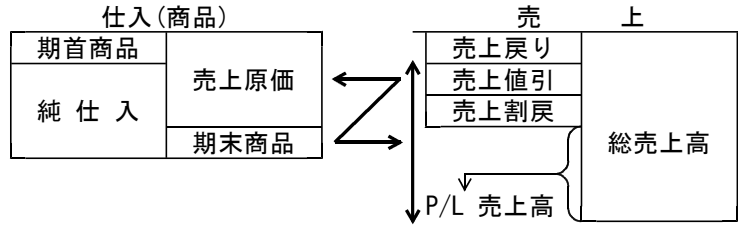
$$\text{原 価 率} = \frac{\text{原 価}}{\text{売 価}} \quad \text{利 益 率} = \frac{\text{利 益}}{\text{売 価}} \quad \Rightarrow \quad \text{原 価 率} + \text{利 益 率} = 100\%$$

2. 基準となる売上高

原価率・利益率の算定に用いる売上高は、返品控除後、値引・割戻の控除前の売上高とする。

原 価 率 = 値下(値引・割戻)による逸失利益をゼロにできたときの期待利益の指標

$$= \frac{\text{期首商品棚卸高} + \text{当期純仕入高} - \text{期末商品帳簿棚卸高}}{\text{総売上高} - \text{売上戻り高} (= \text{純売上高} + \text{値引} \cdot \text{割戻})}$$



3. 原価率・利益率を使用した計算

(1) 売上原価の算定

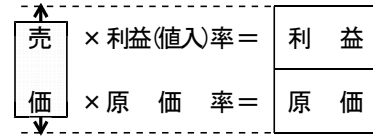
$$\text{売上原価} = \text{売上高} \times \text{原価率}$$

(2) 売上総利益の算定

$$\text{売上総利益} = \text{売上高} \times \text{利益率}$$

(3) 売上高の算定

$$\text{売上高} = \text{売上原価} \div \text{原価率} = \text{売上総利益} \div \text{利益率}$$



7【利益加算率】

1. 意義

利益加算率とは、商品の売価が原価の何%増しであるかを示す割合である。

2. 原価率、利益率との関係

$$\text{原 価 率} = \frac{100\%}{100\% + \text{利益加算率}} \quad \text{利 益 率} = \frac{\text{利益加算率}}{100\% + \text{利益加算率}}$$

3. 利益加算率を使用した計算

(1) 売上原価の算定

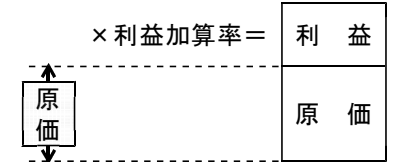
$$\text{売上原価} = \text{売上高} \times \frac{100\%}{100\% + \text{利益加算率}}$$

(2) 売上総利益の算定

$$\text{売上総利益} = \text{売上高} \times \frac{\text{利益加算率}}{100\% + \text{利益加算率}}$$

(3) 売上高の算定

$$\begin{aligned} \text{売上高} &= \text{売上原価} \div \frac{100\%}{100\% + \text{利益加算率}} \\ &= \text{売上総利益} \div \frac{\text{利益加算率}}{100\% + \text{利益加算率}} \end{aligned}$$





3-4 仕入諸掛

①【仕入諸掛】

1. 意義

仕入諸掛とは、商品を仕入れるために要した運賃や保険料等の諸費用をいう。これらは仕入に係る付随費用であるため、原則として商品の取得原価に算入しなければならない。

2. 会計処理

(1) 原則

仕入諸掛は、すべて「仕入(または商品)」勘定に含める。

(2) 仕入諸掛費勘定

「仕入諸掛費」勘定を別途設けて処理することも認められている。

②【仕入諸掛の按分計算】

1. 平均法の場合

仕入諸掛

300→

		購入代価	
期首	3,000	売原	
			24,000
仕入	30,000	減耗	600
		期末	8,400

⇒  $3,300 \times (600 / 33,000) = 60$

⇒  $3,300 \times (8,400 / 33,000) = 840$

3,000→

2. 先入先出法

仕入諸掛

3,000→

		購入代価	
期首	3,000	売原	
			24,000
仕入	30,000	減耗	600
		期末	8,400

⇒  $3,000 \times (600 / 30,000) = 60$

⇒  $3,000 \times (8,400 / 30,000) = 840$

③【簿記一巡の手続】

1. 仕入諸掛費勘定を設ける場合

(1) 期首

		期首試算表	
繰越商品	3,000		
繰越仕入諸掛	300		

(2) 商品の購入時

仕入	30,000	//	買掛金	30,000
仕入諸掛費	3,000	//	現金	3,000

(3) 商品の販売時

売掛金	37,500	//	売上	37,500
-----	--------	----	----	--------

(4) 整理前T/B

		決算整理前試算表	
繰越商品	3,000	売上	37,500
繰越仕入諸掛	300		
仕入	30,000		
仕入諸掛費	3,000		

(5) 決算整理

仕入	3,000	//	繰越商品	3,000
繰越商品	9,000	//	仕入	9,000
仕入諸掛費	300	//	繰越仕入諸掛	300
繰越仕入諸掛	900	//	仕入諸掛費	900
仕入	2,400	//	仕入諸掛費	2,400

(6) 整理後T/B

		決算整理後試算表	
繰越商品	9,000	売上	37,500
繰越仕入諸掛	900		
仕入	26,400		

2. 財務諸表

損益計算書		貸借対照表	
I 売上高	37,500	商品	9,240
II 売上原価		↑	
1 期首商品棚卸高	3,300	実地棚卸高	
2 当期商品仕入高	33,000		
合計	36,300		
3 期末商品棚卸高	9,900	← 帳簿棚卸高	
4 棚卸減耗費	660		
売上総利益	10,440		

## 3-5 他勘定振替

## 1 【他勘定振替】

## 1. 意義

他勘定振替とは、損益計算書の「当期商品仕入高」には正味の購買活動を表示するために、販売以外の商品の減少高を当期商品仕入高から直接控除するのではなく、他の勘定を用いて該当する区分へ表示するための、損益計算書における表示技法をいう。

## 2. 他勘定振替による例

## (1) 自家消費による商品減少高

販売管理費 ××× // 他勘定振替高 ×××

## (2) 火災による商品の焼失高

火災損失 ××× // 他勘定振替高 ×××

## (3) 盗難による商品の減少高

商品盗難損失 ××× // 他勘定振替高 ×××

## (4) 火災以外の災害による商品の減少高

商品災害損失 ××× // 他勘定振替高 ×××

## 2 【簿記手続の一巡】

## 1. 記帳手続

## (1) 期首

期首試算表	
繰越商品	3,000

## (2) 商品購入時

仕入 30,000 // 買掛金 30,000

## (3) 商品の転用

見本品費 1,200 // 他勘定振替高 1,200  
他勘定振替高 1,200 // 仕入 1,200

仕入		見本品費	
当期仕入	他勘定振替高	他勘定振替高	前T/B
	前T/B		1,200
	28,800		

## (4) 整理前T/B

決算整理前試算表			
繰越商品	3,000	売上	37,500
仕入	28,800		
見本品費	1,200		

## (5) 決算整理

仕入 3,000 // 繰越商品 3,000  
繰越商品 7,800 // 仕入 7,800

## (6) 期末

決算整理後試算表			
繰越商品	7,800	売上	37,500
仕入	24,000		
見本品費	1,200		

## 2. 損益計算書

損益計算書	
I 売上高	37,500
II 売上原価	
期首商品棚卸高	3,000
当期商品仕入高	30,000
合計	33,000
見本品費振替高	1,200
期末商品棚卸高	7,800
売上総利益	24,000
売上総利益	13,500
III 販売費及び一般管理費	
見本品費	1,200

← 28,800ではなく、30,000で表示する。その際に「他勘定振替高」を用いる。